Ⅲ 放 流 調 査

1 1993年の放流状況

1993年のハマフエフキ人工種苗の放流は、名護市の許田漁港地先、本部町渡久地漁港、国頭村辺土名漁港、及び大宜味村塩屋湾で行った。許田地先では8月13日、遊漁者による釣獲を避けるため、岸から、水路を隔てた西側に平均尾叉長89mmのものを約15,000尾、辺土名漁港では、8月31日から12月4日にかけて、平均尾叉長84mm～112mmのものを合計約25,000尾（漁港内で中間育成し、生簀崩壊で放流したものを含む）、塩屋湾では、現地で中間育成したものを10月20日に62,160尾（97mm）放流した。また本部町渡久地漁港沖の沈下式生簀に5,500尾を収容（89mm）し、9月2日、台風による生簀崩壊で、放流となった。放流魚はすべて、左腹鰭を抜去して標識した（表1）。

2 再 捕 状 況

再捕に関する情報の収集は、再捕報告と、名護漁協、及び国頭漁協での市場調査によった。ただし、再捕報告は、1回のみであった。名護漁協での調査は、5～11回／月の頻度で行い、調査日数（1カ月の市場調査日数／市場開設日数×100）20～44%、平均34%、重量調査率（調査尾の水揚げ量／1カ月の総水揚げ量×100）13～46%平均31%であった。

国頭漁協での調査は、地元の協力者に依頼したので、13～25回／月、調査日数率86～100%、平均96%、重量調査率60～100%、平均93%となった。調査方法は、調査尾に水揚されたすべてのハマフエフキを漁場別、漁法別にすべて測定する方法によった。各放流群の1993年1月から12月までの再捕状況を表2～表5に示した。

1989年放流群は、名護漁協の市場調査では11尾、国頭漁協では5尾発見された。再捕魚の尾叉長は、31.3～45.7cmの範囲であった。漁法別では、定置網で1尾、刺網で4尾、延縄で10尾、かご網で1尾漁獲されている。

1990年放流群は、名護漁協の市場調査では20尾、国頭漁協では0尾発見された。再捕魚の尾叉長は、28.2～39.9cmの範囲であった。漁法別では、定置網で1尾、刺網で14尾、延縄で2尾、その他3尾であった。

1991年放流群は、名護漁協の市場調査では78尾、国頭漁協では52尾発見された。再捕魚の尾叉長は、20.2～36.3cmの範囲であった。漁法別では、定置網14尾、刺網で57尾、延縄で45尾、かご網で11尾、その他3尾であった。

1992年放流群は、名護漁協の市場調査では18尾、国頭漁協では166尾発見された。再捕魚の尾叉長は、19.6～26.6cmの範囲であった。漁法別では、定置網で9尾、刺網で30尾、延縄で130尾、かご網で15尾、遊漁1尾であった。

その他、名護漁協で86年放流魚が1尾、87年放流魚2尾、88年放流魚2尾が発見された。